

学びの 広場

地域で学び、活動する
皆さんを応援します
北秋田市教育委員会



- 公民館活動 ●生涯学習
- 文化振興 ●学校 ●スポーツ

伊勢堂岱遺跡『縄文音楽祭』

～伊勢堂岱縄文館オープン記念イベント～

伊勢堂岱縄文館のオープン記念イベント「縄文音楽祭」が、5月5日に縄文館野外ステージ「土舞台」で行われ、市内外で活動している音楽団体が、縄文文化をテーマにした楽曲の演奏を披露しました。

伊勢堂岱遺跡の環状列石では、縄文人が歌や踊りを行っていたと考えられており、残された橋脚を背に、音楽を通じて縄文時代に思いを馳せました。

また、縄文館に隣接したテントでは勾玉づくり体験が行われ、たくさんの親子連れなどがボランティアの指導を受けながら製作に取り組みました。

伊勢堂岱遺跡は「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」として世界遺産登録を目指しています。



▲橋脚前の土舞台で演奏を披露する出演者たち

長岐邸一般公開と長岐千春氏絵画展

～七日市地区「おさるべ元気くらぶ」主催～

北秋田市指定有形文化財「長岐邸」の一般公開が、5月3日～5日の3日間行われ、県内外から訪れた観光客など約200人、が江戸時代の肝煎り屋敷「おやかたの家」を見学し、七日市地区の歴史と文化に理解を深めました。

格式高い書院座敷では、七日市出身の油絵画家、長岐千春氏の絵画展が行われ、北秋田市内の風景や祭りを描いた作品約20点が展示されました。

七日市地区の有志で組織する「おさるべ元気くらぶ(長岐直介代表)」は、「おやかたの家」を拠点に

七日市地区の歴史や魅力を伝えながら、地域づくり活動を行っています。



▲一般公開された長岐邸を見学する来場者

高齢者大学がスタート

～平成28年度森吉大学開講式～

森吉大学を皮切りに、高鷹大学、合川ことぶき大学、阿仁生き活き大学と、今年度の各地区高齢者大学が開講しました。

このうち、5月13日に森吉公民館で行われた森吉大学(庄司邦昭学長)の開講式では、受講生を代表して細田禎子さんが誓いの言葉を述べ、76人の学生が学習活動をスタートさせました。

開講式終了後は、第1回講座として袴田俊英さん(心といのちを考える会会長)を講師に迎え、『豊かさの意味』と題した講演が行われました。受講生は、

老若男女だれもが活躍できる地域社会のあり方について理解を深めました。



▲学習の決意を新たに森吉大学開講式

おやかたさ集まるべ講座

開催 6月10日(金) 15時～17時
会場 北秋田市七日市「長岐邸」
講師 長岐純一氏
参加費 2000円(資料代)

長岐宗家文書にみる「七日市村枝郷白澤部落事件」

日時 6月15日(水) 15時～17時
会場 北秋田市七日市「長岐邸」
講師 長岐純一氏
参加費 2000円(資料代)

市内を花いっぱい！

今年も花と苗の販売を行います。個人や団体、地域の皆さんで市内を花いっぱいになりましょう。

販売場所 さかえフラワーセンター
種類と価格 マリーゴールド(黄・オレンジ) 30円/サルビア(赤) 40円/アゲラタム40円
事前申込 6月6日(月)～12日(日)
販売期日 6月18日(土)、19日(日)

※事前申込をしていない方も6月19日(日)は、購入が可能です。予定数量に達した時点で販売を終了しますので、できるだけ事前予約をお願いします。

販売時間 午前5時30分～午前9時
※苗を入れるダンボールや箱等は各自でご用意ください
※申込用紙は各公民館に設置します
開催 さかえフラワーセンター内
62-1386(成田和子)

今月のおすすめの本を紹介します

鷹巣図書館 62-3311
▽知って得する図書館の楽しみかた(吉井潤著)

▽カエルの楽園(百田尚樹著)
▽書店主フィクサーのものごと(ガブリエル・ゼヴィン著)
▽橋を渡る(吉田修一著)

大阿仁公民館短期講座

開催 6月10日(金) 12時～13時30分
会場 大阿仁公民館
講師 加藤由美子氏
参加費 材料代実費
締切 6月10日(金) 20人

料理研究家・kimoto代表
季節の花を寄せ植えします。



参加費 2000円(材料代)
締切 6月10日(金) 12人
開催 6月7日、9日、10日 第4火曜日
時間 13時30分
会場 大阿仁公民館
講師 加藤由美子氏
参加費 材料代実費
締切 6月10日(金) 20人

※詳しくはお問い合わせください。

ふるさとの文化財

「縄文時代編」

○遮光器土偶

(向様田D遺跡出土)

「遮光器土偶」は、約2700～3000年前の東北地方で盛んに作られたもので、青森県つがる市の亀ヶ岡遺跡出土のものの特有名ですが、北秋田市でも向様田D遺跡や藤株遺跡などで見つかった。胸から下はありませんが、頭部は完全な形で残っています。

遮光器土偶の「遮光器」とは、極北地方の先住民アイヌイットなどが、雪原や氷原で活動する際、「雪目」にならないように着用した、横に細い切れ込みを入れた木製のサンングラスのような道具で、土偶の目がその遮光器に似ていることから、遮光器土偶と名付けられました。皆さんも同じような形態の土偶の写真を歴史の教科書などで目にしたことがあるのではないのでしょうか。

異様に大きく盛り上がった目が特徴的で宇宙人の姿を表したと言われることもあります。決してそうではありません。



▲遮光器土偶(向様田D遺跡出土)

遮光器土偶が作られる少し前の年代の土偶を見ると、最初は普通の大きさであった「目」が年代が進むにつれて次第に大きく立体的に表現されるようになってくる。つまり、遮光器土偶の異様な「目」は、目が少しずつ強調され表現された結果、最終的に遮光器のような形になったものと考えられます。また、この土偶の表面の所々に赤く彩色されていた痕跡が残っており、当時は全身が朱色に塗られていたようです。土偶の用途、使い道は様々であったと考えられています。遮光器土偶にどのような意味を込め、何を祈ったのでしょうか。

▽紹介者/北秋田市教育委員会生涯学習課文化係